

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	夏期海外研修ネパール保健医療スタディツアー		
学部・研究科名	医学部		
実施期間	H26年8月18日～H26年8月22日		
研修先(国・都市・施設名)	ネパール・カトマンズ市		
参加者数	5名	知の森基金からの支援者	5名
プログラム概要	8月18日:ラリトプール郡テチョー村の保健医療施設であるヘルスポスト及び村の生活を見学する。帯同教員が参加しているNGOグループのボランティアメンバーとのミーティングに参加し、翌日からのプログラムについて調整を行う。 8月19日:テチョー村ディープマラ幼稚園でぶくぶくうがいと手洗いの講習会を実施。4歳及び5歳児クラスの60人の幼稚園生を3グループに分け、実際に石鹸を使った手洗いと、子供用歯ブラシの普及がない地域での食後のうがいを行った。学生は18日にプログラムの手順を検討し、簡単なネパール語を覚え、当日はNGOグループのボランティアメンバーとの協同で1時間30分程度のプログラムを行った。午後は国内で最も医療水準の高いGrande International Hospitalを見学した。病院内の設備は日本との差はほとんどみられない。 8月20日:テチョー村セントポール幼稚園でぶくぶくうがいと手洗いを実施。(19日と同様)その後チャバゴン村のヘルスポストを見学する。午後は村で開催された女性のエンパワメントグループの総会に参加した。 8月21日:チャバゴン村のライ病院見学。 8月22日:カトマンズ市内及び市外観光。		

実施状況・成果

医療施設の見学や住民の生活を垣間見ることができ、開発途上国の生活や、医療施設の現状を知ることができた。特に医療施設については、第1次医療を担う医療資材の乏しいヘルスポストの見学、国内で最も医療水準の高い病院の見学、また約30年前より海外のカトリック教会の支援を受け、システムティックに現地にあった医療と地域リハビリテーションを提供している病院の見学と、さまざまなタイプの施設を見学することで、開発途上国の医療のすべてが遅れているということではないことを実感できた。

特にシステムティックに医療を提供しているライ病院では、地域での予防活動、らい病患者の早期発見と治療、帰宅後のリハビリテーションまでが統合的に進められており、医療の原点を見ることができた。また、参加学生が中心で行った、幼稚園での手洗いとうがいの講習会では、短期間に計画を立案し多くの人々の協力によって実践を行うことができた。この体験から、国際協力が、日本人のみで実施できることではなく、さまざまな人々との協同でプログラムが実施できることの理解を深めた。また、さまざまな人々との信頼関係の上に、開発途上国の支援が成り立っていることに気づくことができた。

学生の声①ー医学部・保健学科学生

このプログラムに参加して何より私たちが何かの援助をして満足するのではなく、その現地の人と共に学び、現地の人の習慣化を考えた上でマザーボランティアなど様々な人との関係をもち、広い視野で地域を見つめ、地域へのアプローチをすることが大切なことなのだと学んだ。

学生の声②ー医学部・保健学科学生

日本との医療の違いで最も感銘を受けたのは、ライ病患者さんのための病院での理学療法士の先生のおっしゃっていたことです。ネパールの一般の方々のための病院は他国から援助を受けているところが多く、患者さんの医療費負担は無料だそうです。そのため、日本のように病院が儲けを考えること無く純粋に患者さんのためになる治療を行っており、リハビリテーション室に通わなければ受けられない治療よりもご自宅で自分で出来るようなホームプログラムの指導をメインに理学療法を行っているそうです。そのため理学療法室も質素なもので、平行棒が外に置いてあったり、訓練器具も充実していませんでした。しかし、病院全体として同じ目的を持って治療を行っていることが素晴らしいなと感じました。

子どもたちに手洗いプログラムを実際にやっている様子



研修地の皆さんと記念撮影

